

【古典文法 動詞 識別①】

問、次の文中にある傍線部の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① 今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、（竹取物語）
- ② 女の、え得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、辛うじて盗み出でて、（伊勢物語）
- ③ もの詣でする供に、我も我もと参りつかうまつり、物食ひ酒飲み、（枕草子）
- ④ 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。（土佐日記）
- ⑤ いともの憂げに歩み来るを見る者どもは、え問ひだにも問はず、（枕草子）
- ⑥ このころの能の稽古、必ず、そのもの自然とし出だす事に、得たる風体あるべし。（風姿花伝）
- ⑦ 変はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参り侍らむ。（大鏡）
- ⑧ あながちに御前去らずもてなさせ給ひしほどに、おのづから軽き方にも見えしを、（源氏物語）
- ⑨ みよしののたのむの雁もひたぶるに君が方にぞよると鳴くなる。（伊勢物語）
- ⑩ とうより御心魂のたけく、御まもりもこはきなめりとおぼえ侍るは。（大鏡）
- ⑪ 長くとも四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。（徒然草）
- ⑫ また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。（宇治拾遺物語）
- ⑬ 京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられて、よみけるを、（十訓抄）
- ⑭ 三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。（おくの細道）
- ⑮ 薨、風にしぶかれて、谷のそこに鳥のゐるやうに、やをら落ちにければ、（宇治拾遺物語）

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮

【古典文法 動詞 識別①】 解答

問 次の文中にある傍線部の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

- ① 今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、（竹取物語）
- ② 女の、え得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、辛うじて盗み出でて、（伊勢物語）
- ③ もの詣でする供に、我も我もと参りつかうまつり、物食ひ酒飲み、（枕草子）
- ④ 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。（土佐日記）
- ⑤ いともの憂げに歩み来るを見る者どもは、え問ひだにも問はず、（枕草子）
- ⑥ このころの能の稽古、必ず、そのもの自然とし出だす事に、得たる風体あるべし。（風姿花伝）
- ⑦ 変はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず参り侍らむ。（大鏡）
- ⑧ あながちに御前去らずもてなさせ給ひしほどに、おのづから軽き方にも見えしを、（源氏物語）
- ⑨ みよしののたのむの雁もひたぶるに君が方にぞよると鳴くなる。（伊勢物語）
- ⑩ とうより御心魂のたけく、御まもりもこはきなめりとおぼえ侍るは。（大鏡）
- ⑪ 長くとも四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。（徒然草）
- ⑫ また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。（宇治拾遺物語）
- ⑬ 京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられて、よみけるを、（十訓抄）
- ⑭ 三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。（おくの細道）
- ⑮ 薨、風にしぶかれて、谷のそこに鳥のゐるやうに、やをら落ちにければ、（宇治拾遺物語）

① ハ行四段・連体	② ア行下二段・終止	③ ラ行四段・連用
④ サ行変格・終止	⑤ マ行上一段・連体	⑥ ラ行変格・連体
⑦ ラ行四段・未然	⑧ ヤ行下二段・連用	⑨ カ行四段・終止
⑩ ヤ行下二段・連用	⑪ ナ行変格・未然	⑫ カ行上一段・未然
⑬ タ行四段・未然	⑭ ラ行変格・終止	⑮ ワ行上一段・連体